

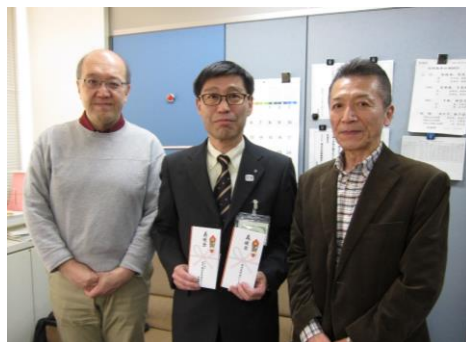
阿波おどり団体から台湾に義援金

20日、台北駐日経済文化代表処（港区）に、高円寺の阿波おどり団体からの義援金を届けました。台湾では、2月6日にマグニチュード6.4の地震が東部の花蓮県などを襲い、多くの死傷者が発生しました。このニュースを受け、阿波おどり公演などで交流のある高円寺阿波おどり連協会と東京高円寺阿波おどり振興協会からの義援金、さらに杉並区、杉並区議会議員有志からの見舞金を届けることとなりました。

6日深夜に、台湾東部を震源とするマグニチュード6.4を記録する地震が発生し、ホテルやマンションが倒壊しました。現地では、余震が断続的に続く状況の中で、不安な暮らしを強いられています。こうした方々が、一日も早く元の暮らしを取り戻せるように願いを込めて義援金と見舞金を届けることになりました。

杉並区の夏の風物詩「高円寺阿波おどり」は、60年以上の歴史を重ねてきました。毎年2日間で、延べ1万人の踊り手と100万人の観衆を集めます。その阿波おどりの連の中でも、地元高円寺のメンバーを中心に活動している連で構成されているのが、高円寺阿波おどり連協会です。現在は31連が所属しています。

杉並区と台湾とは、平成23年以降、中学生野球交流事業を行っています。また、平成27年と29年には、区を代表するイベント「東京高円寺阿波おどり」の公演を台湾で行うなど交流を深めてきました。この公演には、高円寺阿波おどり連協会のメンバーを選抜し派遣してきました。いずれの公演も、台湾の人々の熱い歓声と拍手を受け大成功となりました。



今回、台湾の地震被害のニュースが届くと、派遣メンバーを中心に義援金の話が持ち上がりました。また、東日本大震災が発生したときは、世界のどの国よりも多くの義援金を届けてくれたのが台湾だったことも忘れてはなりません。そうして集められた義援金10万円と賛同した東京高円寺阿波おどり振興協会からも10万円が、区役所に届けられました。



20日午後3時30分、区の文化・交流課長が台北駐日経済文化代表処（港区白金台5-20-2）を訪問し、2つの団体からの義援金と区からの見舞金30万円、区議会議員有志からの見舞金18万5千円を併せて向 明德政務部長に手渡しました。